

# S.G. Report

## 平成30年度 SGH 講演会

「世界を知ると、日本・熊本・自分が見える ～世界は共依存でなりたっている～」

- 日 時：平成30年6月19日（火）
- 場 所：本校体育館
- 対象者：全校生徒および希望保護者
- 講 師：長岡市国際交流センター「地球広場」  
センター長 羽賀 友信 氏



### 【講師プロフィール】

1950年長岡市生まれ。世界66カ国を訪問し、1980年カンボジア難民救援医療プロジェクト（現国際緊急援助隊）では、主任調整員として国境地帯で病院を運営。帰国後は長岡市を拠点に多文化共生社会を目指した地域づくり・グローバルな人づくりに携わり、協働による地域力を世界に向け発信している。

長岡市教育委員。まちなかキャンパス長岡学長。NPO 法人市民協働ネットワーク長岡代表理事。ながおか・若者・しごと機構代表理事。中越地震、中越沖地震、東日本大震災の際は外国人被災者の救援に尽力。外務大臣感謝状、JICA 理事長賞、地域づくり総務大臣表彰、長岡市長表彰など受賞歴も多数。

### 【生徒感想】

●私は、今回羽賀さんの話を聞いて、いてもたってもいられなくなった。今すぐ日本から飛び出して世界中をめぐるたい、そして、その中で自分を見つめ何をなすべきかを熟考し、行動に移したい。今、私は将来の夢について悩んでいるけれど、ずっと日本の熊本で育ってきただけ、たった17年間生きてきただけの私が、まだ進路を決定するには早いのではないだろうか。もっと離れた場所から自分を見つめると、何か違うものが見えてくるはずだ。それを見つめるために大学へ行こう、自分の使命を見つけるために勉強しようと思う。私が将来どんな仕事をしているか分からないが、人とふれあい、人のために何かをしたい。今回の講演は、自分の将来を考えるうえで大きなきっかけになった。（3年 男子）

●世界各地の出来事一つひとつが、興味深く、また面白さもあった。話の中で一番強く心に残ったのは、学校で教えられることが最高ではないということだ。世界に出て、如何に自分の世

界が狭かったか思い知らされることを想像すると恐ろしいが、同時に楽しそうでもある。強くなれば生き残れるのではなく、適応する力が大きい者が生き残るというのも、まさにそうだった。自分の中で、データを情報化して、それをストーリーにすることで学びが深まっていく、言葉を磨く、相手に非理解から理解、納得、共感させるためには、深い思考が必要だ、など沢山の感銘を受ける話が聞けて、本当に良かった。（3年 女子）



●羽賀さんは世界中を自分の目で見て周ってきたからか、異文化に対してとても寛容な姿勢で今回講演されていた。相手の文化を理解しよう、学ぼう、とする姿勢が大切なのだと思う。また、相手の話をう飲みにするのではなく疑ってみることも、情熱をもって自分の言葉を発信すること、まずは自身の日本語から磨いていくこと等から国際社会に対応できる人材になっていかなければならないと感じた。まずは自分が変わっていく、日本はこれからの世界を生き抜くまでの適応力がないかもしれない。これからの日本、世界に少しでも貢献できるような人材になるために先を見据えて自身を磨いていきたい。（3年 男子）

●私は今回この講演を聴いて、自分が日本に生まれて教育が受けられることは、本当に幸せだ、ということに改めて感じた。羽賀さんの言葉の中で「学びは、自分の可能性」だということ、そして、与えられた学びを自分の学びにすること、そしてその知識を持って、世界の見えないところを見て、考え、自らアクションを起こすことが大切だということが分かった。果たして自分は、この恵まれた環境の中で、学びを自分の可能性に変えられているだろうか、無駄にしていないだろうか、と考えさせられた。今では、世界や全国のニュースを目にした時に、ほとんどの場合、自分には無関係だ感じていた。これから、知識をもとにまずは自分が変わることに、先のことを見通した上でアクションを起こすこと、無関心でないこと、を大切にしていきたいと思った。また、そのために、今与えられている教育を大切に、心を持って行動していきたい。（3年 女子）

●講演の中で「日本人はほとんどがサラリーマンを目指すのが、企業を起こすべきだ」とあったが、日本人が「おこす」より「就く」を目指すのは、現在の日本の傾向として「ハード面よりソフト面」が重視されているからだと思う。発展途上国では国を救うため、そして自分が成功するためには企業をおこすのが一番てっとり早い、日本のような先進工業国では、必要な企業はすでにそろっている、必要なはその企業の質をあげるような人材を増やすことだと思う。（3年 女子）



●「どれだけ与えられたか」という言葉が、とても心に響いた。「どれだけ得たか」ということに普通、人は重きを置くと思う。しかし「どれだけ与えられたか」を考える羽賀さんは私なんかよりずっとずっと広い視野と相手の気持ちを自分に置き換えて感じることができるのだろうなと思った。また、日本には改革を起こすような人が少ない

という言葉が胸に刺さった。確かに自分も周りの人も決められた枠の中で生きている感じがする。その枠を超えるのは自分でなくていいと今まで思ってきた。でも今回の講演で、もしその枠をこえねばならぬときがきたらこえられる人間になりたいと思った。自分が今、どれほど狭い世界で生きているのかが分かり、広い世界は輝いているなと思った。(2年 女子)

●今回の講演で机に向かい、ただ学ぶだけでは物事の本質を理解する事に限界があるという事を新たに知ることができた。世界には、教科書では学べない特殊な文化、歴史、人があり、その事を学ぶためには自ら実際に現地に赴き、五感で知り成長する必要があるのだと知った。また「1人」の力の絶大さも学ぶことができた。世の中を変化するのはいついかなるときも「1人」から始まっておりその最初の「1人」になることができたらいいなと思った。(2年 男子)

●たくさんの国や地域を訪れた話はとても興味深かった。アフガニスタンで子どもたちが、大きな布の下で勉強している写真を見て、毎日学校という恵まれた環境で勉強していることがあたり前な自分の考え方をお変えしようと思った。もっとたくさんのことを吸収する！！という意欲をもって感謝して学んでいきたい。世界とは身近なところでつながっていると感じた。考えたり、感じたりするだけでなく、行動に移せる人間になりたい。世界を変えるには自分を変えること。それを忘れずに小さいことから自分で実践していくようにしたい。何事にも好奇心をもつようにしていきたい。英語など、言葉は世界とつながることができるのでもっと勉強したくなった。(2年 女子)

●今日の講演会で特に印象に残ったことが2つある。1つは、好奇心を絶えず持ち続けることだ。何かをやろうとする時にはやはり好奇心が必要だと思う。お話にあったように、よく論理的に考えて、アクションに移すことが大事ではあるが、どの過程にも好奇心というきっかけが重要になってくると感じた。2つ目は自分や自分のいる場所を外からみつめることだ。羽賀さんは、外国に何度も行ったことで、日本という国新潟という県、長岡市という市のことがよく分かるようになったとおっしゃっていた。やはりそこにだけ留まっても本当にその場所のことは分からないのだと思った。自分との向き合い方も外から内を見ることが大切だと学ぶ事ができた。とても有意義な時間だった。(2年 男子)

●今日の講演会を聞いて、これからは世界がつながり、一体となって動く時代だと思った。私は元々、世界の環境問題や貧困の問題に興味がある。だからまだ人には一切言ったことがないが、自分が世界のために何かできる仕事をしてみたいと思っていた。だけど自分は英語なんて一切話せないし、そういう仕事をする人は一部の本当に頭が良い人だけだと決めつけていた。そこで自分の限界を決めつけていては何にもできないと思った。羽賀さんのおっしゃったように、知らない、できないからやめるのではなく、好奇心を持って行動する人になりたいと思う。そして、私が一番心に残った言葉は、「いつ死んでも悔いのない今を全力で生きる」というものだ。やりたい事をウジウジしてやらずにいるよりはチャレンジして生きていきたい。また、世界の人と良いコミュニケーションをとるには、まず、日本、熊本のことをもっと知り、それを人へ伝える力をつけていこうと思う。(1年 女子)

●今日の講演を終えて僕は、「人のために生きるのか」という問いには正しい答えはないのだなと思った。ただ自分の信念を持って大きな行動を成し遂げるためには、羽賀先生のような、世界のために尽くし、豊富な人生経験を積むことが必要で、そのことが「人は何のために生きるのか」という問いの自分なりの答えを見出すためのヒントを与えてくれるのではないかと考えた。また、外から物事を見ることで気付くこともできない内面が分かるというのは、とても共感できたので、客観的な視点で物を見られる力をこれからの経験で養っていきたいと心から感じた。(1年 男子)

●羽賀さんの講話はとても興味深く、自分を見つめなおす良い機会になった。中でも、1番納得したのが、英語を話せるだけでは不十分だということだ。世界の中には5か国語以上話せるのが普通という地域もあり、自分の世界感というのはちっぽけだったと感じた。また、言葉で会話ができても、「面白い奴だ」と思われることが大切だとおっしゃっていて、これが今の社会で求められているコミュニケーション能力かなと思った。「世界と繋がることは難しいことでなく、手がかりは足元に落ちていて、それをどう拾うかだ。」この言葉は私に響いた。今後英語を学ぶ姿勢や、異文化理解への姿勢を考え直せた。(1年 女子)

